

平成 28 年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる「共同利用型」の個人による研究 研究報告書

平成 29 年 3 月 30 日現在

研究課題名	チェルノブイリ原発事故と被災地における学校が担った役割	
申請者	氏名	所属機関・職
	白村 直也	内閣府日本学術会議・学術調査員

研究成果の概要：

本研究は、昨年度までの共同利用研究で得た成果を踏まえ、「チェルノブイリ原発事故と被災地における学校が担った役割」と題して執り行われた。具体的には、①原発事故後に被災地にある学校がとった対応を跡付ける、②その中で被災地の教職員がどのような役割を具体的に果たしたのか、について考察することを目的とした。

そのため、本研究実施においては昨年度から引き続き(1)現地の新聞「ソヴィエツカヤ ベラルーシ」に目を通し、注目記事を拾い上げることに多くの時間を割いた。時間に限りがあったため、各新聞記事の内容を深く吟味しながら取捨選択することはできなかった。そのため、目に留まった記事を取りあえずコピーし持ち帰ることとした。

また、(2)本年度 2 回目となる 3 月の滞在中には、9 日の午後 1 時半～4 時に文系共同研究棟にて行われた福島チェルノブイリ研究会に参加させて頂いた。特定非営利活動法人 HSE リスク・シーキューブ事務局長、土屋智子さんが「東海村での原子力安全にかんする NPO の活動について」というテーマで講演されたのを拝聴した。そして会終了後には、スラブ・ユーラシア研究センターの家田先生をはじめ、参加されていた皆様と交流を深める機会をもつことができ、情報交換をさせて頂いた。

今回の滞在を通じて北大スラブ・ユーラシア研究センターの坂口さんをはじめ、職員の方々には大変お世話になりました。ありがとうございました。

主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）

1. (図書) 白村直也「ロシア」、『世界の社会福祉年鑑 2016』（宇佐見耕一、小谷眞男、後藤玲子、原島博編集代表）、旬報社、2016 年。

当該研究活動を基に応募中の研究プロジェクト（科研費等）

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。